

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（共通授業）

項目	社会貢献講座	対象学年	2年	場所	カレッジホール
テーマ	地域を支えて生涯現役				
講師	中村 順子（認定 NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸 理事長）				
<p>講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 超高齢社会の実態 日本の特殊性 2. 身近な高齢化の現状をデータでみる。 3. 超高齢社会における生活課題と生活圏域に自ら参加して解決する。 4. 神戸市内での事例を多数紹介してモチベーションを高める。 5. 積極的に取り組みたい気持ちを喚起する。 					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>生涯現役の秘訣の一つは、他者への思いやりやボランタリーな活動です。 青春がよみがえってきますよ。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（共通）

項 目	共通	対象学年	2年	場所	カレッジホール
テーマ	ラフカディオ・ハーンの神戸				
講 師	楠本利夫（元芦屋大学教授）				
<p>講義内容</p> <p>ハーンの生涯と神戸との関わり。</p> <p>ラフカディオ・ハーンは、明治時代に日本文化を英語で世界に紹介した 作家である。ギリシャ・レフカダ島で生まれたハーンは、19 歳のとき単身渡米して放浪の末、新聞記者になり、ニューオーリンズ万国博覧会で文部官僚服部一三（後、第 13 代兵庫県知事）を取材した。明治 23 年 4 月、39 歳のハーンは船で横浜に到着した。松江、熊本での英語教師を経て、ハーンは明治 27 年に神戸の英字紙「神戸クロニクル」の論説記者になった。ハーンは神戸で帰化して日本人小泉八雲を名乗った。</p> <p>明治 29 年、ハーンは東京に移り、東京帝国大学講師、早稲田大学講師を歴任し、明治 37 年に東京で没した（54 歳）。</p> <p>ハーンは松江（1 年 3 か月在住）時代には、言動が地元の新聞を賑わしたが、神戸では 2 年住んでいたにもかかわらず、市民にはハーンをほとんど知らなかった。ハーンが神戸では知られていなかった理由と、ハーンに関する意外な事実を紹介する。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>ハーンの人生を、神戸の関わりに重点を置いて、パワーポイントを使って講義します。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（共通授業）

項目	共通	対象学年	2 年	場所	カレッジホール
テーマ	ボランティア活動とは～いのちの電話の場合～				
講師	神戸いのちの電話 事務局長 正岡 茂明				
<p>講義内容</p> <p>神戸いのちの電話は 1981 年発足しました。その当時、自殺者数は年間 2 万人台でこれほど多くなるとの予想は無かったと思います。いのちの電話の活動は、第 2 次大戦後それまでの共同体社会が解体していく中で、つながりを失った人々が孤独の中に苦しみ、中には自ら死を選ぶという事態に対して、イギリスで始まったものです。この活動が世界的に普及し、日本では 1971 年東京いのちの電話が発足し、神戸でも神戸 YMCA を中心に始まったものです。現在、全国に 50 のセンターがあります。</p> <p>その後、神戸いのちの電話は 1995 年の阪神淡路大震災によって、壊滅的な打撃を受けますが、全国からの支援などを得て、電話相談事業はすぐに復旧して、今日に至っています。近年自殺者が 3 万人を越える事態が 15 年近く続きました（1998～2011）。先進国の中で最悪の状態となり、官民挙げてこの事態を解消する努力が行われ、ようやく 5 年前から減少に転じ、昨年は 2 万 1,000 人台となりました。</p> <p>この講座は、前半で神戸いのちの電話を例に挙げ、ボランティア活動について考えてみることにします。阪神淡路大震災やバブル崩壊後の「失われた 20 年」を経て、ボランティア活動も変化しているように感じます。後半は、私が神戸いのちの電話以外で関わっているボランティア活動を紹介します。その中で、私が経験したこと、感じたことなどをお話します。</p> <p>目次：①自己紹介（10 分）</p> <p>②神戸いのちの電話について（30 分）</p> <p>（1）自殺（死）に関する現状</p> <p>（2）傾聴、受容、共感そしてゲートキーパー</p> <p>（3）ボランティア観の変化</p> <p>③その他のボランティア活動について（40 分）</p> <p>（1）あまがさき市民まちづくり研究会→火垂るの墓を歩く会</p> <p>（2）ジンバブエ野球会</p> <p>（3）NPO 法人「こころ・あんしん Light（こあら）」</p> <p>④まとめ～雑感（10 分）</p>					
講師よりメッセージ					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（共通授業）

項目	社会貢献講座	対象学年	2 学年	場所	カレッジホール
テーマ	地域交流について				
講師	佐野正明（NPO 法人コミュニティかりば 専務理事）				
<p>講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域には、様々にたくさんの地域交流・地域活動があります。そのうち特に、コミュニティビジネス手法でしかできない活動、地域の各種団体が協力してしかできない活動事例について紹介します。 ・「NPO 法人コミュニティかりば」は、地域の婦人会,シニアクラブ, アラウンド還暦クラブ（ちょいボラの会）,民生児童委員協議会,学校施設開放運営委員会などの各種団体の中心的メンバーにより設立され、コミュニティビジネス手法で地域のニーズに沿った事業を展開し、「安心して住み続けられる地域づくり」に役立つとともに、つながっているたくさんのメンバーの生きがいともなり介護予防ともなっています。 					
<p>講師よりメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなさまがお住まいの地域には、地域交流・地域活動のネタとなるたくさんのニーズやウオンツがあります。それらは、趣味のサークルでできることや地域団体でできることなどいろいろあります。それらの地域交流・地域活動は「安心して住み続けられる地域づくり」に役立つとともに、それらにつながる方々の老後対策・介護予防となるものです。 					

シルバーカレッジ 講義概要 (シラバス) (共通授業)

項目	共通	対象学年	2年	場所	カレッジホール
テーマ	子どもの生きる力をデザインで支える～社会的養護が必要な子どもへの支援～				
講師	和田 隆博 (NPO 法人子どもデザイン教室 代表理事)				
<p>講義内容</p> <p>親と暮らせない子どもを支援する「子どもデザイン教室」の物語は、2006年の5月から始まります。当法人の監事とのある話し合いから生まれました。2002年から高校などで学校教育に携わってきた私は「なぜ学校教育にデザインがないんだろう？」とデザイン教育の必要性を感じていました。「それなら自分が長年、広告デザイン業界で培ってきたスキルを子どもたちに教えよう」当初はそんな発想が始まりでした。</p> <p>ところがその話を監事にすると「子どもをより金持ちにする方法を教えてどうすんの？世の中には金持ちになりたくても、なられへん子がおんねんよ」と諭されました。そして、親に頭から熱湯をかけられた女の子の話をされました。お昼に出たおうどんに箸をつけられず、冷え冷えになったのを覚えています。その頃、児童養護の児の字も知らなかった私が、あれから11年。今では通算で12人の里親をしています。</p> <p>将来が真っ白で、何にでも一生懸命な子どもの可能性が私は大好きです。一方で、第4次産業革命が進展し、コンピュータ社会の台頭と共に、誰もがデザインできる時代になってきました。現役デザイナーの終わらせ方と自分自身の新しい使命を模索し、その頃の私は経済的にもどん底でした。そんな私が夢見た世界が今、徐々に実現しようとしています。やはり「自分の人生をデザインすること」は重要です。</p> <p>今年で子どもデザイン教室は創設11年目を迎えます。これからも親と暮らせない子どもの未来を照らすランプになりたいと考えています。子どもデザイン教室では現在、子どもの成長に合わせて3歳から22歳まで、お絵かき工作から自立支援まで繋がるレッスンを展開しています。名付けて「自分デザイナーを育てるレッスン」。自分の人生が設計できる人を育てています。また、子どもデザイン基金として、子どもの自立資金と運営資金を創出する取り組みをしています。さらに、子どもサポートホームとして、親と暮らせない子どもを里親として育てています。今までこの3つの柱はバラバラでしたが、これからはこの3本の柱を一つに繋がる取り組みをしています。このような子どもデザイン教室のこれまでとこれから、親と暮らせない子どもたちの現状、レッスンで子どもたちがどう変わるのかをお話したいと思います。</p> <p>講師よりメッセージ</p> <p>私はよく子どもたちに話しています。「諦めない限り夢は叶うと」。私もそうして夢を叶えてきました。そんな私のお話をぜひ聞いてください。お目にかかるのを楽しみにしています。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（共通）

項目	共通	対象学年	2年	場所	カレッジホール
テーマ	生命といのち				
講師	岡田安弘（神戸大学名誉教授）				
<p>講義内容</p> <p>「生命と何だろう」「いのちとは何だろう」という問は、たとえ口に出さずとも、無意識のうちに誰もが心に抱いている問題です。広辞苑をひくと、生命とは「生物が、生物として存在することができるゆえんの根源的な属性（特性）として、感覚、運動、成長、増殖のような生活現象から抽象される一般概念である」と記されています。これは生命をきわめて生物学的な観点から定義しているものと思われます。一方いのちとは「生命の生きてゆく原動力」「もっとも大切なもの」と書かれています。これは生物学的な説明ではなく、むしろ生命の意味、生きていることの意味を考えた上での定義でしょう。今回の講義では、著しく発展してきた生命科学の歴史をふりかえりながら、不思議ともいえる「生命」の生物学的な成り立ちとはたらきを説明し、それに対して「いのち」とは何かを皆さんとともに考えてみたいと思います。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>この講義が、限りある生命を生きている「自分」とは何かを考える糸口となって下さればありがたいと思います。</p>					